

# かんわ News Letter vol.1 April.2014



## 緩和ケア普及室のおたよりができました。

こんにちは、緩和ケア普及室です。2013年度より設置されました新しい部署ですが、皆さまからのご協力もあり、早いもので1年が過ぎました。活動の中心は、2008年から発足した「緩和ケアサポートチーム」ですが、その他の活動内容やお知らせ、メンバーの紹介などを随時お伝えしていけたらと思っています。すきま時間に目を通していただけたら嬉しいです。第1回は、緩和ケア普及室室長（兼麻酔科部長）三輪高明先生からのコメントです。

## News Letter 創刊に寄せて 三輪高明



私の小児医療のMentorのひとりである当センター先々代外科部長 西先生との出逢いは23年ほど前になる。旧5東病棟に併設された手術室。術後出血に対する深夜の緊急開腹止血術であった。患者と共に入室するなり開口一番“三輪ちゃん、血管遮断するまで何とかもたせてくれ。頼む！ ○○、○○（当直看護師名）協力してくれ”。繊細かつ一切の無駄を省いた手術操作に感動すると同時に、何より瀕死のこどもの前で瞬く間に医療チームをまとめ上げた力量に深く感銘を受けた。

その後7年ほどの大学・市中病院での研究、臨床生活を終え、大学所属教室の理解、KCMC麻酔科諸先輩のご尽力のおかげで再度KCMC赴任を果たした。その歓迎会の席で西先生にいただいた言葉が“三輪ちゃん、これからは手術室にばかり閉じ

こもっていないで、俺たちと一緒に小児医療をやろう”であった。Patient-centered care やそのためのチームアプローチが叫ばれて久しいが、西先生のこの言葉以上に心に響いたものはない。私は小児麻酔だけではなく、小児医療に携わっていくことをこの時に深く心に刻んだ。

以来なるべく院内様々な部署に顔を出し、実際にこども医療で行われている医療を自らの目で確認、時に参加させていただいてきた。そのような中、機運の高まり、様々な方々の後押しを受ける形で緩和ケアサポートチームが2008年に、緩和ケア普及室が2013年にそれぞれ発足した。緩和ケアは病院開設以来、院内各部署が独自に献身的に取り組んできているが、もっと病院全体で共有するべきであるし、さらに改善できる部分が多々あると感じた次第である。

きっと、自分の専門性に閉じこもるほうが楽なのであろう。“何もいまさら、そんなに厄介で、面倒くさいことに関わらなくてもいいのに” 周囲の方は一様にこう激励して下さる。確かに極めて専門性の高い医療者たちの中で、結果として子ども・ご家族のための最善を志向するフラットなチームを構築するのは極めて困難な仕事である。しかし、私はMissionというのはそういうものだ理解している。それを遂行するチャンスを与えてくださったこども医療センターの諸先輩方、そして何より一緒に活動してくれている普及室のメンバーに感謝する日々である。

**今年度も緩和ケア普及室をよろしくお願い致します。**

お問い合わせ： 緩和ケア普及室 三輪高明【PHS5281】 柏木順子【PHS5984】